

いわむろ

発行所 岩室村役場
印刷所 巻・北洋印刷K.K

創立十周年記念特集号



昭和40年12月1日制定

融和と前進



“緑と太陽の里を”

岩室村長 横山 喜八郎

合併十周年を迎え、記念 我等の緑と太陽の里新生岩室式典並びに村政振興大会を、室村の源流をそれらに見る開催するに当り、村民のみことができるものであります。なんと共に、過去を省み、

み、現実を直視し、将来への展望に立って、岩室村の発展を期することは、誠に意義深いことであります。我が岩室村が幾多の困難に心血を注いで、明るく豊かな村づくりに励んで来られたのであります。

昭和三十五年一月二十日。私はこの貴重な新村建設いま当時の試練のかげで、温古知新のや、変転極まりなかった混雑とし、一万村民の「融和と前進」に資することを念

時、誠に感無量、万感胸に願ひ、広報「いわむろ」の迫るを禁じ得ないと同時に、特集号刊行を企画したのであります。

十年後の岩室村

議会議長 本間 十郎

新村誕生十年。光陰矢の如く、まこと一瞬のうちに過ぎ去った感があります。この十年。大は月旅行から小は身辺の小変化に至るまで、実にいろいろのことがありました。近代産業に恵まれぬこの村が、よくそこまで成長してきたものです。常に前向の姿勢で、村民こそってがんばってき

たお蔭だと思ひます。一九七〇年は、日本海時代の夜明けといわれます。とて、力強い歩調で進んでおります。とて、力強い歩調で進んでおります。とて、力強い歩調で進んでおります。

あります。

一九七〇年代は激動の年代といわれ、我が岩室村においても、弥彦山スカイラインの開通、農村観光の確立をめざす岩室観光開発株式会社発足による「ドライブイン岩室」の開業、一方はまた天下の美田に、厳しく迫る農業問題、社会開発の急進により派生する諸問題等々、今後の諸情勢は誠に複雑多岐、多事多難であることを覚悟せねばならないのであります。

私はここに、先輩各位に對して敬虔なる感謝を捧げ、賢明なる村民各位と共に、明日の郷土繁栄のため、一大勇猛心をもって、限りない前進を続けることを希うものであります。

史空前の「お米の減産」という厳しい試練の場に立たされております。新潟県的美田こそ、うまいお米の生産基地であることを。むしろこの有史以来の危機にこそ適者生存の自然の大法則に従って、勇氣と希望を以て一致団結して進むべきであります。これは、自明の理であります。豊かに明るく、限りなく新鮮で、躍動し前進する観光農村であり、村人の生活はしつとりと落着き、行き交う人々は、誰彼となく和やかな挨拶を交わすような平和な上村の姿を、十年後の岩室村の上に描きたいと思ひます。